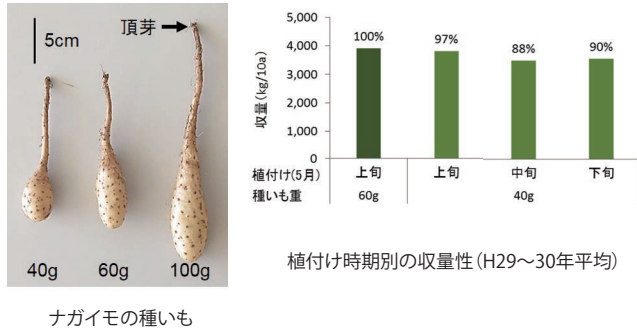


◎主な研究成果

◆ナガイモの種いもの有効活用

【目的】早植え栽培において、標準（50～100g）より小さい種いもの利用方法を明らかにする。

【結果】50g未満（35～45g）の種いものでも、頂芽付きで5月上旬に植付けることにより利用可能であった。
（平成31年度指導参考資料）

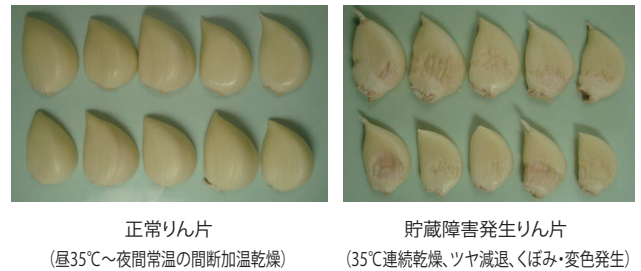


◆ニンニクの品質向上

【目的】高品質出荷のための乾燥方法を明らかにする。

【結果】昼間は35℃、夜間は20～24℃で通風する「間断加温乾燥」により長期貯蔵後でも高い品質を維持できた。また、乾燥を失敗しないための「乾燥チェックリスト」を作成し、インターネット上に公開した。
（平成29年度指導参考資料）

※間断加温乾燥はテンパリング乾燥とも呼ばれる。



◆冬春播きタマネギ栽培に適する品種

【目的】本県における冬春播きタマネギ栽培に適する品種を選定する。

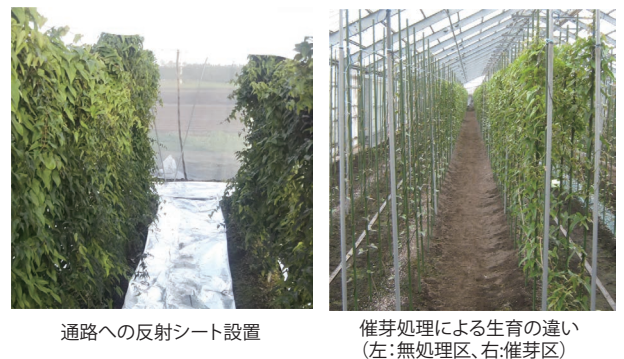
【結果】7月下旬～8月中旬までに収穫できる4品種を選定した。
（平成31年度指導参考資料）



◆ナガイモ種子用むかごの増収技術

【目的】反射シート設置や催芽処理によりナガイモ種子用むかごの増収を図る。

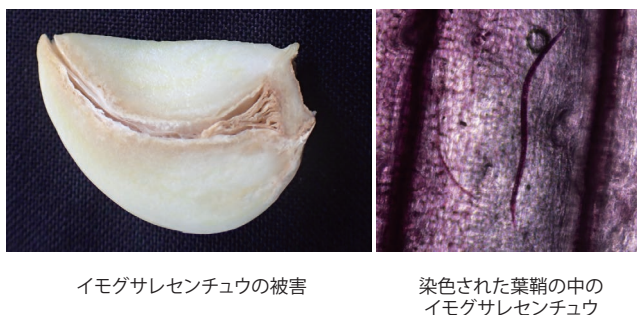
【結果】むかごの総収量は反射シート被覆や催芽処理により5割以上増加した。
（平成31年度指導参考資料）



◆ニンニクの安全・安心な病害虫防除方法

【目的】ニンニクへのイモグサレセンチュウの侵入状況を把握して、被害軽減できる収穫時期を判定する。

【結果】葉鞘の何枚目まで侵入しているか確認する方法を開発した。
【今後】センチュウ被害を減らせる収穫時期の判定法を開発する。



◆ダイコンのキスジノミハムシ防除対策

【目的】キスジノミハムシの効果的防除体系を確立する。

【結果】粒剤と散布剤を組み合わせた効果的な防除体系を確立した。
（平成30年度指導参考資料）

